

日立とサイアムセメントG、IoT用いた流通効率化へ協創

Edited By LogisticsToday On 2018/09/18



▲調印式の様子

日立製作所、日立アジア（タイランド）社、サイアムセメントグループセメント・ビルディングマテリアルズ（SCG-CBM）は18日、SCG-CBMの工場のエネルギー省力化や流通業務の効率化に向けた協創に関する覚書（MOU）を締結したと発表した。

今後3社は、日立のIoTプラットフォーム「Lumada」（ルマダ）を活用したデジタルソリューションの開発や共同実証を行い、製造現場から物流に至るまでのバリューチェーンのさらなる効率化に向けた取り組みを進める。

具体的には、タイ南部のトゥンソンにあるSCG-CBMのセメント工場で、Lumadaのソリューションコアである「工場シミュレーター」を活用して生産能力や生産管理などの各種データベースを分析し、工場全体の最適な生産計画を自動で立案することで、エネルギー使用量の削減を図る。

また、流通業務については、セメント配送トラックの運行データを分析し、最適な配送計画を立案することで、物流コストや在庫の削減を図る。

3社は今後、共同実証・効果検証を行うとともに、日立のデジタル技術を活用した協創を深耕させ、適用範囲拡大を検討していく。また日立と日立アジアタイランド社は、SCG-CBMとの協創により新たなサービスを構築し、Lumadaのソリューションコアとしての展開を目指す。

Article printed from Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト : <http://www.logi-today.com>

URL to article : <http://www.logi-today.com/325911>

Copyright © 2019 Logistics Today | 国内最大の物流ニュースサイト. All rights reserved.